



Musical Theatre Syllabus

ミュージカル シアター
受検要項（抄訳）

2023年 3月から

目次

ようこそ	3
2023年1月からの更新内容	4
多様性	4
検定内容	4
1. はじめに	6
ABRSMについて	6
資格認定における詳細・	6
実技グレード検定について	7
UCASポイント（英国）	9
資格認定規定（英国以外のヨーロッパ）	9
資格認定規定（それ以外の国）	9
2. 実技グレード検定	10
シラバス	10
検定規定集	10
不正受検と不正運営	10
受検資格	10
受検申込み	11
受検へのアクセス（特別な配慮の必要な受検者）	11
検定の配点	11
検定の実際	11
特別な配慮	12
3. 実技グレード検定要項	13
グレード1-8（曲目リスト：英文参照）	14
課題内容及び詳細情報	
4. 評価と採点及び違反行為	
評価の目標	
評価の配点	
評点の区分	
包括的評価について	
評価	
違反行為	
採点基準	

5. 検定の後に

結果

アピールとフィードバック

6. その他の検定

パフォーマンス グレード

音楽理論

プラクティカル ミュージシャンシップ

ARSM

DipABRSM, LRSM, FRSM

曲目プログラム用紙（提出用）

ようこそ、ABRSMミュージカル・シアター検定へ！

ABRSMのミュージカル・シアター実技グレード検定は大好きな歌を、リハーサル、オーディション及び舞台本番で活躍するために必要な技術をもって歌えるように手助けします。ミュージカル・シアターは今も老若男女問わず多くのパフォーマーを生み出し続けている、輝かしく力強い現代芸術形態のひとつです。このジャンルの歌手たちに国際的に認められているグレード1から8資格を得られる機会を提供できることを非常に嬉しく思います。

ABRSMは音楽への情熱を基に指導者や学習者を長い間サポートしてまいりました。その中の一つがグレード検定です。ここでは厳格で一貫性のある基準が設置され、各々次のステップへの明確な目標となっています。検定は、学習者にわくわくする体験と多大な恩恵をもたらします。まず、学習者はモチベーションを持ち、素晴らしい音楽の発見と共に新しい技術を身につけることができます。さらに検定で音楽の目標に到達することによって、達成感が得られるのです。

ABRSMは学習者にとって、この検定を受けることが前向きで実りの多い経験となるよう最善をつくします。ここではスペシャリスト、音楽指導者、検定員の協力のもと、幅広い課題曲が選択されており、高度に訓練された検定員は、親しみのある態度で受検者に接し、彼らが検定において最大の力を発揮するよう努めます。また、検定員は明快で分かりやすい基準に基づいて、信頼できる客観的なおかつ一貫性のある評価を行います。最後に受検者は価値のあるフィードバックとなる採点用紙を受け取り、全ての合格者には、合格証書が渡されます。

オーディションの練習台として、本舞台への準備過程として、またはただ好きな作品の歌を歌うため、私たちはあなたがバランスの取れたパフォーマーとなるために必要な技術を身につける手助けができるような検定をデザインしています。

皆様の検定試験が楽しく実りのあるものとなりますように！

2023年1月からの変更

このシラバス(受検要項)では、

- 最新の作品や再発見された作品から多くの新しい曲を追加しました。
- 新しく追加された曲は、シラバスにて **NEW** と表示されており、2023年1月以降の検定から使用が可能です。

追加された曲はありますが、リストから削除された曲はないため、このシラバスの更新に伴う移行期間はありません。度々行われるマイナーな変更点を含むシラバス更新の告知は、その都度下記の公式サイトに掲載されます。www.abrsm.org/syllabuscorrections 既存の規定などを明確にするため、文章にもいくつかの変更点があります。

多様性

ABRSMでは音楽界における多様性と平等性を大切に、それらをシラバスなどABRSMの重要な項目に積極的に取り組んでいます。

ミュージカル・シアターには長い歴史があり、様々な作曲家、編曲家、キャラクター、役者、文化、意図及びテーマを持つ作品があります。このように複雑な背景故に、同ジャンルの各時代を表す曲を選ぶ際には時代遅れとも取れる内容や文化的なステレオタイプなどが含まれる作品を除外することが非常に難しくなっています。

私たちはシラバスにおいてこのような曲の比重を極力減らすよう努めています。ですが、今現在含まれている曲の特徴について特筆させて頂いたのは、単に受検者に警告するためだけではなく、私たちがここからまた学んでいくためです。

これからも多様性を豊かにしていく上で、このような問題について更に敏感に対応していく所存です。

検定内容

課題曲

各グレードにおいて、リストから各々一曲ずつ伴奏付きの3曲、及び無伴奏1曲の計4曲が歌われます。これらは1920年代から現在までのミュージカル作品から抜粋され、異なる特徴と様式を備えており、このリストには毎年新しい曲の追加が予定されており、追加項目は次のウェブページにて確認出来ます。

www.abrsm.org/sfmt

リストA、B及びCから伴奏付きの曲を選ぶことにより、歌唱の表現の幅が示され、又、生のピアノ伴奏は、コンサートやオーディションの良い練習にもなるでしょう。他の音楽家と共演することは、大切な音楽技術の一つである事は申すまでもありません。

無伴奏曲（ア カベラ）は要項の青い★マークのついた曲から受検者により任意に選択され、歌われます。これは、音程を整えることにより受検者の耳を鍛え、自信をつける良い方法です。オーディションやソロへの良い準備ともなることでしょう。

初見視唱

初見視唱力をつけることには、多くのメリットがあります。新しい曲に自信を持って臨め、更に読譜力も高まり、オーディションの際にも役に立ちます。合唱やアンサンブル等で他の人たちと一緒に音楽をする際、直ちに参加できることを可能にします。

視唱の曲－短い新曲－は、ミュージカル シアターに適した選択に基づいた、魅力的で馴染みのある様式のものも多く、英語の歌詞が付きます(オプション)。通常、最後の数小節を奏でるピアノのイントロに続いて歌い始めます。低グレードでは、ピアノがメロディをなぞって弾かれ、読譜だけではなく、貴方の聴く力が。ここでも役に立つでしょう。このようなヒントはグレードが上がるにつれ少なくなっていくます。

オーラル テスト

この分野での力を養うことにより、貴方の「音楽的な耳」が育ちます。優れた聴く力により拍を感じ、速さを保ち、旋律や和音を理解することが出来ます。これらは限られた練習時間内に音楽を把握する場合、非常に役に立つ技術です。ミュージカル歌手はこの分野においての能力がとても高い場合が多く、この検定によって、この力がますます伸びていくでしょう。グレード1－3においてはテストの内容は、拍子打ち、模唱、違いを示す、および検定員によって演奏される曲についての質疑応答などが含まれています。グレード4－8では、メロディの模唱、音程差の確認、曲を聴いて質問に答えるなどのテストが含まれます。グレード4と5では音楽に合わせて手拍子を打つ項目が、グレード6から8では変調に関する質問が加えられます。

1. はじめに

ABRSM について

ABRSM は音楽への情熱を基に指導者や学習者を長い間サポートしてまいりました。その中の一つがグレード検定です。ここでは厳格で一貫性のある基準が設置され、各々次のステップへの明確な目標となっています。この検定は4つの英国王立音楽大学から協力を賜り、音楽の達成感を得る為にさまざまな工夫と試行錯誤を経て、いまや世界中で価値が認められ、信頼されています。

グレード検定は楽器だけではなく、声乐、ジャズ、音楽理論そしてプラクティカル・ミュージシャンシップなど、多岐に渡って行われます。シラバスは基本的な音楽スキル—聴く力、演奏力、読む力、書く力、そして音楽の知識と理解力をベースとしています。これらのスキルと共に、学習者は音楽力を伸ばし、さまざまな音楽分野での能力を発展させることができます。

私たちは、このシラバスが学習者、指導者の音楽力、指導力を高める上に励みになり、役に立つものとなるよう願っております。皆様の「音楽の旅」が実りのあるものとなりますように！

私たちの使命

ABRSM の使命は学習者が音楽を学んでいく過程で達成感を得られるよう導いていくことにあります。私どもはこれを英国王立音楽大学4校（王立音楽院、王立音楽大学、王立北部音楽大学、王立スコットランド音楽大学）と提携して行なっています。ABRSM は音楽の持つ芸術的価値、また音楽教育の重要性に強い情熱を傾けており、音楽と関わっていくことによって、人々は類のない素晴らしい経験をし、生涯に渡ってその恩恵を受けとることが出来ると信じております。

ABRSM は世界の音楽教育を先導しており、その評価体系、出版物、そして指導を通して、音楽を教え、学び、創り、そして楽しむ際に必要な知識や手段を世界の人々に提供しています。

ABRSM の奨学金、寄付、後援そしてパートナーシップは、あらゆる年齢の人々が音楽と出会い、その潜在能力を十分に発揮する機会を作り出しております。また私どもの全て活動は、学習者と指導者の「音楽の旅」をサポートする目的のために行われております。

ABRSM とは？

ABRSM (Associated Board of the Royal Schools of Music) はイングランドとウェールズにおいて登録されている団体であり、事務局はロンドンにあります。詳しくは公式サイトをご覧ください。 www.abrsm.org

資格認定に関する詳細

適用範囲

この資格認定に関する詳細には、指導者、受検者、保護者そして団体が以下のセクション3に属する実技検定試験を準備する際に役立つ資格規定の関連情報が掲載されています。

- ・ ABRSM 音楽実技におけるエントリーレベル資格(イニシャルグレード)(エントリー 3)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル 1 資格(グレード 1, 2 及び 3)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル 2 資格(グレード 4 と 5)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル 3 資格(グレード 6, 7 及び 8)

ミュージカル・シアター検定においては未だ獲得できない他の資格についても言及されています。

また、検定の過程、学習の成果、採点基準などの詳細が掲載されています。検定の事務事項などを含める詳細は、ABRSM 検定の規定概要(www.abrsm.org/examregulations)にて提示されていますので、申込の前に必ずお読みください。

要項の有効期限

この要項（シラバス）は 2023 年 1 月 1 日から、新しいシラバス発行の告知があるまで有効です。

特別な事情がある場合にはシラバスに変更を加えることがあります。その場合はウェブサイトにて前もってお知らせ致します。この要項の最新版は www.abrsm.org/exam にて閲覧可能です。

実技グレード検定について

資格認定の目的

実技検定試験は学習者が音楽を演奏する際に必要な技能を段階的に身につけられるように作られています。各グレードにはそれぞれに新しい課題が用意されており、学習者が無理なく意欲を持って引き続き音楽技能を発展させ磨いていけるよう構成されています。受検者は受検したグレードの習熟度や批評、助言等が書かれた正式な講評を受け取りますが、これはこの先、引き続き学んでいく過程において貴重な指針となるものです。

受検資格

実技検定受検においては年齢の制限はありませんが、グレード 6 から 8 を受験するには受検資格条件を満たす必要があります。詳細は英文 13 ページに記載しています。この実技検定では異なる年齢、経歴、音楽への興味や関心に沿って幅広い課題曲が選択出来るよう工夫されています。また私どもは、すべての受検者が公正な評価を受けられるよう、要望に沿った受検会場の手配や調整を行っています。

構成

各実技検定試験は包括的な音楽スキル・テクニック、読譜、聞く力、音楽的な知識、理解力及び創造力を評価するように構成されています。全グレードにおいてこれらのクリエイティブな能力はレパートリーの演奏とそれを補完するテストによって示されます。これらのスキルは総合的に、受検者を次のグレードの受検、

進学、就職、及び他の芸術活動に繋げていくことが出来るのです。

受検者はレパートリーリストから三つの伴奏付の曲と 1 曲の無伴奏曲を課題曲から選択して歌唱し、初見テストの楽譜やオーラル・テストの質問に対応することを求められます。要素ごとの評点はそれぞれ違った配分（三つの課題曲は全て同じ）であり、各要素別に評価されます。

学習の道すじ

ABRSM の実技グレード検定はイニシャルグレードからグレード 8 まであります(訳注：ミュージカル・シアターではイニシャルグレードは実施していません)。それぞれのグレード検定は、段階的にレベルが上がっていくように作られています。ミュージカル・シアターで受けられるグレードについてはこの要項のセクション 3 にて詳細を確認できます。下から順にすべてのグレードを一つずつ受検していく必要はありませんが、グレード 6、7、8 の受検においては事前取得が必要な受検資格があります(下記参考)。

実技グレード検定では様々なレパートリーをこなし、無伴奏曲を通してテクニックを身に付け、初めて見る初見楽譜やオーラル・テストに対応するなど、音楽家としての技術を一番低いグレードから磨いていくことを重要視しています。

実技グレード検定の受検者は、学習過程において自身のパフォーマンス技術を集中的に磨くため、パフォーマンス・グレード検定を受けることもできます。この検定は、学習者が歌の技術的なコントロール、レパートリーの解釈、伝達の仕方などのパフォーマンス関連スキルを披露することに重きを置いています。各グレードは段階的に進めるよう設計されており、学習者にとって新しい挑戦となって自身のパフォーマンス技術を磨くための動機と枠組みを提供します。パフォーマンス・グレードは学習者たちが一定の長さのプログラムを演奏することを通して音楽的にコミュニケーションをとる力を評価される機会を与えます。

どちらの資格もその性質から、ABRSM のディプロマへと進むための理想的なプラットフォームとなります。ミュージカル・シアター検定も準備中である演奏のみのディプロマ、ARSM は受検者にプログラム構成においてさらに多くの責任と自由度を与え、更にはレパートリーを増やしながらパフォーマンスのテクニックや解釈の力をつける機会を提供します。

演奏、口頭試験や筆記提出物などを通して、DipABRSM(演奏)やその上位資格である LRSM と FRSM の受検者は、演奏やコミュニケーション、リサーチのスキル、音楽的な知識と理解を示すことになります。詳細はセクション 6 に記載されており、又 www.abrsm.org/diploma も合わせてご覧下さい。

受検資格の事前取得

高レベルでの満足度の高いパフォーマンスの為には、その音楽の要素を十分に理解していることが肝要です。私たちの理論検定は受検者が音楽用語を判別、活用し、又音楽の抜粋を理解し設問に答えることができる様に作られています。又、プラクティカル ミュージシャンシップ(訳注：実技ソルフェージュ)においては、受検者が学習しているレパートリーの音楽的素養を理解すると同時に表現や解釈についてのスキルを獲得す

ることを目指します。従って、グレード6以上の実技検定受検（パフォーマンスグレードも含む）には理論検定、あるいはプラクティカル ミュージシャンシップG5以上の事前取得が必要となっております。

英国における UCAS ポイントの規定

英文6～7ページの表は、グレード取得の際の資格規定です。（訳注：合格証に記載され、英国系学校への進学の際、加点される。）詳細は、以下を参照願います。 www.abrsm.org/regulation

英国以外のヨーロッパにおける UCAS ポイントの規定

以下は、英国と英国以外のヨーロッパのポイントの対比表です。

その他の国の UCAS ポイントの規定

各国のポイントについては以下を参照願います。 www.abrsm.org/regulation

2. 実技検定

シラバス

シラバス有効期間

この要項（シラバス）は2023年1月1日から、新しいシラバス発行の告知があるまで有効です。

シラバスの変更

すべての変更－マイナーな変更点を含む変更告知－は、その都度下記の公式サイトに掲載されます。

www.abrsm.org/syllabuscorrections

移行期間

シラバス変更の一年目においては、前のシラバスを用いての受検が可能です。移行期間についての詳細は、以下のサイトを参照のこと。www.abrsm.org/overlap

不正受検と不正運営

私たちは音楽力の達成を目指しています。そして、この検定は何千人という人々の音楽学習や指導に役立っているのです。特に高等教育への進学の場合はこれが顕著です。したがって、この資格の価値や公正性は、受検者の技術と知識を測る指標として大変重要なものとなっております。不正行為は、決してあってはならないものであり、重大な事柄なのです。

●**不正受検**とは検定評価、結果や、証書発行過程での妥協的行為を伴う場合を指します。資格授与団体としての名誉や評判を傷つけるような行為もこれに含まれます。

●**不正運営**とは運営上の手続きが著しく規定に反するもので、特にこれが検定結果の公正性を損なう場合を指します。

受検者、受検申込み者は当該シラバス及び、検定規定集、をもとに決められた手続きに従って、受検を行うものとします。不正受検が行われた場合は罰則があります。不正受検と不正運営に関する政策の詳細は次のページで確認できます。www.abrsm.org/policies.

受検資格

木管楽器のグレード実技検定は8段階(デサントリコーダーのみグレード1から5まで)に分かれています。受検における年齢制限はなく、グレード1から5まではどのグレードからでも受検できます。グレード6、7、および8の受検者は検定の申し込み締め切り日までに以下の検定に合格していなければなりません。

- ABRSM 音楽理論 グレード5以上

- 同プラクティカル・ミュージシャンシップ グレード5以上
- 同ソロのジャズ楽器 グレード5（訳註：日本では行われておりません）代替条件を含む詳細については www.abrem.org/prerequisite を参照のこと。

受検申込

検定日程、会場、受検料、申込方法については下記のサイトをご覧ください。

www.abrsm.org/exambooking

受検へのアクセス（特別な配慮を必要とされる方）

ABRSM は、視覚障がい、学習障がい、その他通常の受検が困難なすべての受検者が、この検定を受検できるように、ガイドラインを設け努めてまいります。詳細は次のページにてご確認ください。

www.abrsm.org/specificneeds

このガイドライン以外の事例については、ケースバイケースで対応いたします。

詳しくは accesscoordinator@abrsm.ac.uk 又は www.abrsm.org/specificneeds にご相談ください。

検定の配点

ミュージカル・シアターの実技検定は伴奏付き課題曲3曲、無伴奏曲1曲、初見視唱、オーラルテストの6つの要素で構成されています。各々の配点については英文150ページを参照のこと。

検定の実際

検定員

通常、1名の検定員によって検定が行われます。課題曲の前後に検定員が楽譜を確認する場合があります。検定員はプログラムの前後にスコアの確認をすることがあります。その際は受検者又は伴奏者のスコアが使用されます。検定員の判断で演奏を途中で止める場合もありますが、それは演奏を評価するに十分と判断されたためです。

検定科目の順番

受検者は、どの科目からでも受検できますが、伴奏者が必要な曲を最初に続けて受検するのが望ましいです。

パフォーマンス

受検者には歌う時、検定員（‘聴衆’）に向かって歌うことを推奨されます。検定員は評価を書き留めるために下を向いているときにもしっかりと聴いています。

楽器

ABRSM 認定会場においては、アップライト/グランドピアノが用意されています。

検定所要時間

下記に記された時間は受検者が、検定室へ入室、退室、また検定員がマークフォームに記入し終えるまでの大体の時間を示します。

グレード	イニシャル グレード*	グレード 1	グレード 2 & 3	グレード 4 & 5	グレード 6	グレード 7	グレード 8
時間 (分)	12	12	14	17	20	25	30

*ミュージカル・シアターにはイニシャルグレードが含まれません。

特別な配慮

受検者が突然の病気や事故、悪阻、或いは検定直前の不慮の不都合な状況に陥った場合には、特別の配慮がなされます。これは、検定員による配点や評価が変わるということではありません。詳しくは以下を参照のこと。www.abrsm.org/policies

3. 実技グレード検定要項

伴奏付課題曲 3 曲：受検者は各グレードのリストA,B,Cから一曲ずつ選び、暗譜して歌います🎧 がついている曲は、最大1曲までのみ選べます。詳細は英文シラバスの同項及び142ページをご参照ください。

無伴奏課題曲 1 曲：各グレードの曲目リストのうち★がついている曲を一曲選び、選んだ曲の1-2分ほどのセクションを暗譜して歌います。詳細は英文シラバスの同項及び142ページをご参照ください。

初見テスト：今まで見たことのない短い音楽を、検定員のピアノ伴奏と合わせて歌います。詳細は英文シラバスの同項及び144ページをご参照ください。

オーラル・テスト：検定員がピアノを弾きながら行います。詳細は英文シラバスの147ページをご参照ください。

保護者の指導推奨：大人の指導が必要な（成人向けの）内容を含む歌や作品である可能性があるとされている曲には  の印が表示されていますが、これは全てを網羅・把握して表示されているわけではありません。各受検者に適した曲を慎重に選択することを強く推奨します。

課題曲リスト：英文の各グレードを参照。

リストの見方

リスト A

Annie Get Your Gun <ミュージカル名>

I. Berlin <作曲者名>

<リスト番号>	<曲名>	<成人向けの内容有/ 無伴奏選択可>	<曲集名(出版社名)>
---------	------	-----------------------	-------------

A:1	I got lost in his arms (from chorus)	 ★	🎧 Annie Get Your Gun: vocal selections (Hal Leonard) C (D4-E5) <調 (音域)>
-----	-----------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------

(以下同様)

課題内容及び詳細情報

ここでは講師と受検者がABRSMミュージカル・シアター実技検定を受ける際に考慮すべき重要事項の概要を説明します。検定の事務事項などを含める詳細はABRSM検定の規定概要にて提示されていますので、申込の前に必ずお読みください。(www.abrsm.org/examregulations)

伴奏付の課題曲

プログラム構成：受検者は3つの伴奏付課題曲（及び無伴奏課題曲1曲）を歌唱します。曲は全て受検するグレードの課題曲リスト A、B、C からそれぞれ1曲ずつ選びます。検定当日、受検者は演奏予定の曲目番号を含む曲目リストを提出しなければなりません。曲目リスト用紙は要項の最後のページにあります。

他より長めの曲には、🕒の印が表示されています。受検者は3つの伴奏付課題曲を選ぶ際、この印がついている「長めの曲」は最大1曲まで選択出来ます。

様々な声質や声域、年齢や背景を持つ受検者たちのニーズに応えられるように、課題曲リストには多様な曲が幅広く含まれています。すべての曲の声域や内容(扱っているテーマや歌詞)、より広範囲の脈絡(歴史的、文化的、ショー自体の思想・テーマなど)が、すべての受検者にとって適切ではない可能性があります。各受検者に適した曲を慎重に、必要であれば指導者や保護者と相談した上で、選択することを推奨します。保護者の指導が推奨される内容を含む曲や作品である可能性がある場合、PGの印がシラバスの課題曲リストに表示されています。

課題曲リストは ABRSM ミュージカル・シアターのパフォーマンス・グレード検定においても同様のものが使用されます。両方の検定を同じグレードで受ける予定の受検者は、それぞれ違う曲を選択することで、自身の音楽的な成長に役立てることが出来ます。

言語：すべての課題曲は原曲の言語での歌詞、あるいは翻訳された歌詞で歌うことが出来ます。

調性：グレード1から7において、すべての曲はどの声域、どの調(キー)でも歌うことが可能です。グレード8では、すべての声域で、原曲の調性通り、又は要項に提示されている調より一音上げるか下げて歌うことが出来ます。多くの曲は複数の調性で出版されており、受検者や指導者が直接移調した楽譜を使うことも可能です。各曲の調性は受検者の声域に合ったものを慎重に選ぶ必要があります。

参考として、要項にはすべての曲の出版された楽譜の調性及び声域を記しています(複数の調性をもつ曲は声域のみ表記)。調性は楽譜ごとに表示されています。声域に関しては、楽譜ごとに違いがない限り、最初に書かれている楽譜にのみ記されています。

声域は次のような形式で表記されています：



楽譜と出版社：受検者は要項中のどの版 (ダウンロード版も含む) を使用してもかまいません。

要項に掲載されている出版社名は、現在出版されている楽譜の一例として参考にして頂ければ結構です。多くの曲は、様々なコレクションやエディションで入手が可能です。

歌詞：全ての曲は、性別を問わず歌われます。その為、性別に関する代名詞などの表現を変換することも可能です。登場人物が複数の曲も、課題曲リストで特別な指定がない限り、ソロとして歌います。複数で歌う曲をソロ用に変換したり、攻撃性のある/偏見のある言葉を避けたりするために一部の歌詞を変更することが出来ます。

楽譜の解釈：記載されている音楽的な指示の有無にかかわらず、曲のスタイルに適った歌い方が望ましいのは言うまでもありません。演奏にあたっては、音符やリズムが正しく弾けるだけではなく、音色の使い分け、拍感、フレーズなどが、どのようにコントロールされ、音楽全体を形作っているかが評価の対象になります。

ヴァース (Verse) と繰り返し：受検者は全曲を通して歌わなければなりません。繰り返し、ダカーポ、ダルセーニョなども含みます。但し以下の場合を除きます。

- ・要項に「省略」の記載がある。(DS/DCで歌詞が異なる場合は受検者が任意に選択)
- ・要項に特定カットの指示がある。
- ・完全な繰り返し(音楽や歌詞に全く変化が見られず、繰り返しが音楽的に意味を持たない場合)

要項に省略の記載がある場合、これは曲を検定に適した形式にするための指示です。場合によってはピアノの序奏(イントロ)や間奏(ブリッジ)、及び後奏(アウトロ)などが簡略化・省略されます。

Ossias：オッシア (別の演奏法) が表記されている場合は、特に要項に記載されていない限り、受検者の選択にまかされます。

暗譜：すべての曲は暗譜にて歌われなければなりません。

伴奏：伴奏付きの曲は、すべて、生の伴奏者を必要とします。録音された伴奏は使用できません。

受検者は自ら伴奏者を同伴する必要があるが、伴奏者は伴奏の場合のみ受検会場に入ることができます。受検者の指導者は伴奏者になれますが、受検者自身が伴奏することはできません。尚、検定員は伴奏しません。必要に応じて、伴奏者は音楽的な流れを崩さない範囲で、伴奏の一部を単純化できます。長いピアノ・伴奏楽器のソロパートは要項に特定の指示がない限り省略します。

グレード6-8に限り、伴奏の譜めくり者を伴うことが出来ます。検定員は譜めくりを補助出来ません。

コピー及びダウンロード：英国の法律の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合にコピーの使用が認められ

ます。(詳しくは www.mpaonline.org.uk をご覧ください。) その他の場合においてはコピーをとる前に申請をし、検定において許可証の提示が必要です。

すべての受検者と申請者は著作権法の範囲内で行動することを求められます。不適切な行為などが判明した場合、検定結果の発表を保留する場合があります。

楽譜を求めるにあたって：検定用の楽譜は、楽器店やオンライン (ABRSM も含む；www.abrsm.org/shop) で購入が可能です。課題曲の有効期間内は楽譜の購入が出来るような体制が採られております。受検者は必要な楽譜が品切れになる前に早めに購入することをお勧めいたします。楽譜について、検定以外に関する質問は、直接出版元へお問い合わせください。www.abrsm.org/publishers

無伴奏課題曲

受検者は当該リストから青い★印の付いた曲を無伴奏、暗譜にて歌うことになっています。同じ曲を伴奏つき、無伴奏両方で歌うことはできません。

受検者は選択した曲からグレード1から5の場合は1-2分程度、グレード6から8は1-3分程度のセクションを切り抜いて歌います。要項に記されている繰り返しの指示や省略を守る必要はありません。

無伴奏曲は、どの言語、どの調でも歌えます。転調などがある場合でも転調せずに歌うことが出来ます。本来間奏が入るための休止小節は省略します。

出だしの音又は主和音をピアノで確かめることも出来ます。無伴奏曲は必ず暗譜して歌います。

初見視唱

受検者は検定員の伴奏と共に初めて見る短い曲を歌います。すべての曲にはピアノの序奏があり、受検者は視唱の準備の前にこの序奏を聞くことになります。

初見の曲には明快で簡潔な英語の歌詞が記載されています。受検者はこの歌詞で歌う、あるいは母音、ドレミでの視唱も可能です。

受検者はト音、或はへ音記号の音域を選択でき、検定員にどちらで歌うかを伝えます。

初見の前に：検定員は主和音と開始音を与え、次に2小節のカウントが入った後、開始和音で終わる序奏を弾きます。その後、受検者は約30秒の予見時間が与えられ、その間、試唱をしても良いことになっています(試唱は無伴奏のみ)。

検定では：実際の検定では、再度主和音と開始音が与えられ、2小節カウントの後に序奏が始まります。受検者は序奏と同様の拍、テンポを保ちながら歌います。

伴奏：検定員が弾く序奏によりテンポが決められ、歌い始めます。グレード1から3の序奏は、曲の最後の数小節と同様です。グレード1、2に於いて伴奏はメロディーの音にかぶせられ、更にグレード3では、伴奏の割合は増えていきます。グレード4、5の伴奏の割合が更に増え、時々メロディーをなぞります。グ

レード6 - 8に於いては、メロディーが伴奏からほとんど独立した形となります。

各グレードにおける音楽要素：グレードが進むにつれて、息継ぎの為の休符を含み、徐々に音価が増えていきます。英語(理論試験レベルの範囲)での表記がみられ、又、強弱記号は旋律の上部に示されます。なお、表に出てくる各要素はそのグレードにおける新出事項を示しています(英文145ページ参照のこと)。

練習問題集：準備のために、初見視唱の練習問題集(グレード1-3用、グレード4と5用、グレード6-8用)がABRSM出版から出ています。これらの教材の購入は必須ではありません。

オーラル・テスト

グレード1から3では、すべてのABRSM実技検定において共通のテスト内容となります。グレード4から8では、ミュージカル・シアターというジャンルに適した内容に調整されたテストが用意されます。内容の詳細はグレード別の概要をご参照ください。

検定では：オーラル・テストは、検定員によりピアノを用いて行われます。歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも、音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいずれでもよろしい。検定員は受検者の声域を配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1オクターブ下げて歌うこともできます。

評価：いくつかのテストでは、必要に応じてやり直しが認められています。又、受検者に躊躇が見られる場合は、検定員がヒントを与えることもあります。これらのケースは、評価に影響を与える場合もあります。評点は各テストごとに付与・減点されるのではなく、オーラル・テストに対する受検者の総合的な反応を反映しています。

4. 評価と採点及び違反行為

評価の目的

次の表は実技検定の際、受検者に必要な知識や技術のレベルを表しています。これらは検定員が評価する際の基準と連動しています。詳しい評価基準は英文152ページをご覧ください。

(訳註：英文の基準一覧は英国圏でのレベル分けとなっている為、和訳は省略)

評価の配点

ミュージカル・シアター対面実技検定評価の点数は、下記の様に、要素毎に振り分けられています。

検定の区分	各セクションの満点	合計点に対する配分
伴奏付課題曲 1	30	20%

伴奏付課題曲	2	30	20%
伴奏付課題曲	3	30	20%
無伴奏曲		21	14%
初見視唱		21	14%
オーラル テスト		18	12%
合計		150	100%

評点の区分

以下は検定結果の区分け一覧です。各項目において、必ずしも 100 点（66%）を獲得しなければならないということではありません。

評点の区分	評点の範囲
Distinction（秀）	130－150
Merit（優）	120－129
Pass（合格）	100－119
Below Pass（不合格）	50－99

包括的評価について

包括的評価とは、受検者が主要な課題において必要な技術、知識など効果的に使い、示しているかを判断する評価の形式のひとつです。実技検定では異なるスキル、知識、理解力－理論、表記、楽器のコントロール、聴く力、創造的な解釈力等をまとめて、検定の個々の科目に応用することが出来るのです。

評価

検定員の評価は、当日の検定内容のみに基づいて行われます。以前のパフォーマンスは評価の対象とはなりません。又、パフォーマンスグレードと対面実技検定の間で評点の変更が行われることはありません。

違反行為

受検者/受検予定者は、実技検定要項に掲載された検定内容を読み、遵守することが重要です。これらに違反した場合は、ABRSMの裁量にて警告、減点或いは失格となる場合があります。以下は違反行為の例です：

- 当該グレード要項に掲載されていない曲を演奏する
- 当該グレード要項に掲載されているが、細かい部分で不適當である（例：楽章が異なる、リストからの選曲の組み合わせが正しくない 等）
- 声楽及びミュージカルシアターにおいて、無伴奏曲が極端に短い／長い場合。

これらに対する対応としては

- 書面での警告：主に細かい違反（例：同じリストから2曲選択）に対して行われます。それ以降の検定において違反行為が続く場合には、より重い罰則が科せられます。
- 各要素（訳注：課題曲1など）の減点：要項に掲載されていない曲の演奏のようなより重要な違反に対しては、各項目つき3点からその項目の満点までの範囲において減点が行われることがあります。
- 基本的に検定内容が遵守されていない場合（例：当該グレードからの選曲が皆無である 等）には失格もあり得ます。

検定員は違反行為を ABRSM に報告し、その裁量と対応がなされます。その為、結果通知が遅れる場合があります。罰則なしの違反行為に関してのアップールは受け付けられません。

評価の基準（Marking Criteria）

英文 152 ページの評価リストは検定員が実際使用するもので、科目ごとに合格基準をもとにして合格点からプラス或いはマイナスしていくという採点方式です。検定員はこのリストに掲載されている各要素（大別して、音の高さ、拍感、音色、フレーズ、演奏力など）を通してみられる全体的な音楽的資質や能力を考慮して結果を出します。（詳しい和訳はピアノ要項に掲載されています。）

5. 検定の後に

結果

全ての受検者は検定の結果を受け取ります、又合格者へは、合格証が送付されます。ABRSMはできるだけ所定のスケジュールに沿って、結果を送付するようにしておりますが、遅れる場合もあります。検定員は結果報告に関してのいかなる行為も行いません、即ち評点用紙（合格者には合格証）は、検定後本部より発行されます。又、結果はエントリーフォームに記載されている受検申込み者に送付され、受検者に責任を持って伝えられます。

アップールとフィードバック

アップール

受検者が予期せぬ結果を受け取った場合は、Result Reviewを要求することが出来ます。これにより検定員からの評価が再検討され、場合によっては、評点の変更もあり得ます。

フィードバック

結果再検討に加えて、結果以外のフィードバック、例えば検定全般や、マークフォームなどについてのフィードバックも歓迎いたします。これにより継続的な検定の改善を目指しております。
フィードバックの期限など詳細は www.abrsm.org/send-exam-feedback をご覧ください。

6. その他の検定

金管楽器奏者の為の ABRSM の他の検定としては、プレップテスト、ジャズ、パフォーマンス・グレード、パフォーマンスアセスメント、アンサンブル、及びディプロマがあります。詳細は www.abrsm.org/exams にてご参照ください。

パフォーマンス グレード

ABRSM のパフォーマンス グレード (G1～8) は学習者の演奏力に特化し、それを披露する機会として設けられたもので、科目によってはイニシャルグレードも設定されています。受検者は、グレード、年齢に関係なく、どのグレードからでも受検可能です。詳しくは次のページを参照のこと。

www.abrsm.org/performancegrades

(訳註：グレード6以上は事前取得資格の必要有り)

パフォーマンス グレードについて

各パフォーマンスグレードでは、そのパフォーマンスに必要な基礎知識や理解がなされているかが総体的に評価されます。

これらの創造的なスキルは、楽器の技術的なコントロール、レパートリーの解釈、伝達の仕方、演奏プログラムの継続性、などの点が留意され評価されます。これらのスキルは受検者が次なるステップへと進み、ひいては他の創造的な分野での資格取得へと繋がっていくのです。

検定は次の5つの要素で成り立ちます。

- 4つの演奏曲／歌曲－課題曲リストから3曲と自由曲1曲
- パフォーマン全体の評価

これらの要素は等しく配点され個別に評価されます。

この検定は現時点ではオンラインのみにて受検可能です。受検者はワンテイクで演奏を録画し、ABRSM に送り評価を仰ぎます。

受検者／受検申込み者は、適切な会場設定と受検環境を用意する責任を負います。

グレード6以上のパフォーマンス グレードを受けるには、プラクティカル・ミュージシャンシップ或いは理論検定グレード5以上の事前取得が必要となっています。代替資格なども含め、詳細は www.abrsm.org/prerequisite をご覧下さい。

音楽理論

演奏家、作曲家、一般聴衆が幅の広い音楽力を身につけるには、音楽語法を理解し、精通することが不可欠です。書かれている記号と、音楽の要素との関係を理解し、それを翻訳し、実際の音としてどの様に表すかを学ぶことによって、その音楽の持つ意味をより深く経験できるのです。又、記譜法の知識なしでは、クラシック音楽家がレパートリーを理解したり、アンサンブルをしたりすることが、困難となるでしょう。それどころか、記譜法が存在しなければ、作品が後の世に受け継がれていくことも不可能だったにちがいません。その意味で音楽理論は演奏や作曲と綿密に結びついている、実用的な科目なのです。

ABRSM の音楽理論検定によって、学習者は：

- ・ 記号、用語など、西洋音楽の記譜法を理解し、
- ・ 音程、調性、スケール、和音など音楽の基本的な要素を理解し、
- ・ 理論の知識を理解し、楽譜の分析へと応用する事ができ、
- ・ 旋律或いは和声を完成させることができるのです。(グレード 6 - 8)

受検者は、各グレードに準じて、音楽記号を自在に使い分けたり、音符の抜粋を完成させたり、音楽の要素に関する設問に答えることによって、能力を評価されます。

グレード 1 - 5 の検定はオンラインで、グレード 6 - 8 は対面形式での受検となります。

グレード 5 の事前取得

長年にわたる ABRSM の水準のひとつとして、グレード 6 以上の実技検定を受けるには、理論検定グレード 5 以上の事前取得が必要となっています。高い水準の音楽を、満足のいくように演奏するためには、その音楽の諸要素の理解が、不可欠だと考えるからです。(プラクティカル・ミュージシャンシップ、又はジャズのソロ演奏でのグレード 5 の取得もこの基準を満たすものとします。)

プラクティカル・ミュージシャンシップ

プラクティカル・ミュージシャンシップ検定は声楽および、実技検定の全ての楽器でグレード1から8まで受検できます。受検者は、グレード、年齢に関係なく、どのグレードからでも受検可能です。詳しくは個別のシラバスを参照のこと。www.abrsm.org/practicalmusicianship.

プラクティカル・ミュージシャンシップについて

ミュージシャンシップという言葉は、音楽能力の分野を幅広く網羅する概念です。この要項の目的に沿って言えば、「音で考える」能力と言えるでしょう。この力は内なる想像力をもって音楽をする－聴いて、演奏したり、歌ったり、読譜をしたり、即興をしたり－場面で発揮されるのです。

ABRSMのプラクティカル・ミュージシャンシップは、受検者に「音で考えて」、自発的な演奏をする力をつける機会を与えます。ほかの実技検定が、前もって周到に準備された演奏力が中心となるのに比べ、ここでは、その場で聴いたり、読んだりしたものに対し、直ちに弾いたり、歌うことによって、反応することが求められています。

プラクティカル・ミュージシャンシップの検定は、グレード毎に、音楽家の為のバランスのとれた、以下のような基本的な技能を包括します。

- ・ 音楽を内なる耳で聴き、再生する。
- ・ 最小限の準備で、楽譜を読み解く。
- ・ 短いモチーフを、内在する可能性に基づいて、展開する。
- ・ 書かれた音楽と、実際に演奏されたものとの、相違点を見つける

これらの能力をつけることによって、学習者はレパートリー演奏に必要な音楽を理解し、解釈するなど、音楽の語彙力をみにつけることができます。

グレード5の事前取得

グレード6以上の実技検定を受けるには、プラクティカル・ミュージシャンシップ、或いは理論検定グレード5以上の事前取得が必要となっています。高い水準の音楽を、満足のいくように演奏するためには、その音楽の諸要素の十分な理解が、不可欠だと考えるからです。

ARSM *

ARSM は、全ての器楽、声楽の学習者が年齢に関係なく受検できます。ディプロマ資格の最初の段階として、演奏技術と、それに関連するテクニックを伸ばす機会が提供されています。受検者がレパートリーを広げ、リサイタルプログラムの構成を考える上にも有用です。

ARSM の主な特徴

- 以下の要領で受検者は、バランスのとれた、多彩なプログラムを演奏します。
 - ・ 演奏時間：30 分
 - ・ このうち少なくとも 20 分は ARSM 演奏レパートリーリストから選択

残りのプログラムは、グレード 8 と同じ或いはそれ以上のレベルの曲を受検者が自由選択。

- 楽曲演奏以外のテストはありません。
- ARSM は次の形で受検できます。
 - ・ 対面式実技グレード検定と同時期に、同じ会場での受検
 - ・ 演奏の動画を撮影、アップロードによる受検
- ARSM は、資格のひとつとして証明書、プロフィール等書き加えることが可能です。

この ARSM を受検するには、G8（又は代用資格）の事前取得が必要です。詳しくは次のウェブページをご参照ください。 www.abrsm.org/arsmdiploma

ABRSM のシラバスは、随時更新されています。変更点は事前にウェブサイトでお知らせいたしますので最新版のサイトをご確認ください。 www.abrsm.org/exams

*現在ミュージカル・シアターのARSM検定は行われておりません。

DipABRSM / LRSM / FRSM (演奏)

これらのディプロマは、年齢に関係なく全ての器楽、声楽の学習者が受検できます。その場での検定と、あらかじめ用意された論文／エッセイなどにより、音楽的な知識や理解に基づいた、受検者の演奏技術、コミュニケーション能力、研究能力などが示されます。全てのディプロマは次のレベル受検への必須条件となります。

主な特徴

- 受検者
 - ・リサイタルプログラムに基づく演奏
 - ・あらかじめ、プログラム ノート (DipABRSM および LRSM) 又は提出論文 (FRSM) を作成
 - ・リサイタルや、プログラムノート／提出論文の内容を中心としたヴィヴァ・ヴォーチェ (口頭試問) が行われます。
- 短い無伴奏の初見曲：5分間の試弾ができます。(クイック スタディ)
- これらのディプロマは所定の期間と会場で行われます。
(訳註：日本ではグレード実技検定と同じ時期に行われます。)
- これらを、資格のひとつとして、証明書、プロフィール等の名前の後に書き加えることが可能です。これらのディプロマを受検するには、各々のレベルでの事前取得が必要です。詳しくは次のウェブページをご参照ください。 www.abrsm.org/diploma

ABRSM のシラバスは、随時更新されています。変更点は事前にウェブサイトでお知らせいたしますので最新版のサイトをご確認ください。 www.abrsm.org/exams

その他のディプロマ検定

これらのディプロマ検定は、楽器／声楽の指導、指揮法の領域でも行われます。詳しくは次のウェブページをご参照ください。 www.abrsm.org/diploma

現在ディプロマ検定内容の変更、改訂作業が行われております。現時点で、ここに記載されている [内容の最新情報は www.abrsm.org/diploma](http://www.abrsm.org/diploma) をご覧下さい。

EXAM RUNNING ORDER FORMS

Name _____

Subject Singing for Musical Theatre

Grade _____

Please write details of the songs you are performing in the order you are presenting them and hand this slip to the examiner. Best wishes for an enjoyable and successful exam!

List	Number	Show	Song

Unaccompanied song:

List	Number	Show	Song

09/18

Name _____

Subject Singing for Musical Theatre

Grade _____

Please write details of the songs you are performing in the order you are presenting them and hand this slip to the examiner. Best wishes for an enjoyable and successful exam!

List	Number	Show	Song

Unaccompanied song:

List	Number	Show	Song

09/18